

## 保育現場のICT化・自治体手続等標準化検討会（第1回）

### 議事要旨

日時：平成29年11月20日（月曜日）13時00分～15時00分

場所：経済産業省 本館17階第2特別会議室

### 出席者

青木委員、池本委員、金本委員、鈴木委員、高橋委員、吉田委員

### 議題

1. 本検討会の開催趣旨等について
2. 実証事業の内容について
3. 意見交換

### 議事概要

事務局より本検討会の開催趣旨及び実証事業の内容について説明を行った後、内閣府で行っている関連調査の概要について、説明が行われ、その後、意見交換を行った。

委員からの主な御意見は以下のとおり。

- ニュージーランドでは、10年以上前から保育のICT化が検討されている。日本でも諸外国を参考に検討を進めていくべき。
- 保育の全体的な業務の中には、ICT化によって負担を軽減できるものと制度自体の問題がある。保育制度の効率化ということも意識して頂きたい。
- 新制度が始まって個人給付に変わり、管理の負担が増えることを見込んで保育所の給付事務についてシステムを導入した。
- システム導入によってある程度自治体の給付事務の負担は軽減され、また、それは保育所にとっても負担にはなっていないと認識している。給付事務のICT化に関する自治体の課題についても検討の中で整理して欲しい。
- 介護や障害者分野の標準化・ICT化については厚労省で検討している。保育のICT化にあたってはこれらの前例などを参考に検討すべき。
- 実証事業だけで終わらせないで継続して内閣府子ども・子育て本部等で議論していく必要がある。また、どこまで国策でやるのかも整理すべき。

- 障害者施策を例に、標準化する上で何が必要なのかについても整理すべき。他の事例については、次回の検討会で資料を使って説明したい。その上でゴールをどこにもっていくのかについて検討すべき。
- 本検討会では、1法人1施設の保育所のICT導入についても進めていくことを想定しているか。1施設経営の保育所にとってもメリットがあるシステムを検討して欲しい。
- 保育現場の立場からは、保育のICT化に対する期待感はあるが、保育園の業務がそれで画期的に負担軽減になるかというところは難しい。
- 機材をそろえる、管理運用の手間、保育士のICTリテラシー不足等保育の現場においては様々な課題があり、難しい部分もある。
- 保育のICT化を進めることで、保育の見える化が進むと、良い保育をしていることが世間に対するアピールともなり、それがICT化に取り組む意欲向上へとつながっていくのでは。
- 検討会を進めるにあたっては、システム化や標準化と保育そのものの課題を整理していく必要がある。
- 園務の負担軽減だけでなく、保育者の負担軽減も検討していくべき。
- 子どもに関わる以外の時間を意味するノーコンタクトタイムについて、日本でも整理していくべき。そのためには、保育の業務全体を整理する必要がある。
- 保育のICT化が保育現場のリスクマネジメントにつながると保育所にも導入が進みやすいのではないか。
- その他保育のICT化にあたっては、園長の意識改革等の情緒的な要素も考慮する必要がある。

## お問合せ先

商務情報政策局商務・サービスグループ サービス政策課 教育サービス産業室

電話：03-3580-3922

FAX：03-3501-6613